

令和4年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

- 【学校名】 佐世保市立広田小学校
【所在地】 佐世保市広田1丁目25番4号
【校長】 井上 文典
【学校規模】 32学級 児童数882名 (R4.5.1)
【学校教育目標】

「本物の笑顔」かがやく広田小
やさしく かしこく たくましい子どもの育成



(小学校校舎：1～5年)



(中学校6年生校舎)

1 テーマ

「本物の笑顔」かがやく広田小
やさしく かしこく たくましい子どもの育成

本校の目指す学校教育目標「本物の笑顔」かがやく広田小 やさしく かしこく たくましい子どもの育成の具現化のために、次の5点を柱として取り組みました。

- (1) 小中一貫型教育の推進
- (2) 心豊かな児童の育成
- (3) 地域人材を生かした、体験活動の充実
- (4) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践
- (5) 特別支援教育の充実を図る環境整備

2 実践内容

(1) 小中一貫型教育の推進

- ① 6年生は、中学校校舎で生活をしながら、中学生と行事などを通して交流しています。中学生の自立した姿を見て学ぶことを通して、【シェアード リーダーシップ】(対話、協議、分担、協働)の力を育成することができています。
- ② 中学校教師による乗り入れ授業を受けることで、より専門性の高い学力を身に付けることができています。

- ③ 5年生への6年生校舎における説明会では、1年間の学びの集大成となる表現力、主体的に学びに向かう姿勢を存分に発揮することができました。5年生に憧れを抱かせ、次年度からの中学校校舎で生活する意欲を向上させる6年生の活躍が見られました。



1～5年生・小学校校舎では、5年生がリーダーシップを発揮し、17年ぶりの本校の運動場で開催したホームグラウンド運動会、委員会活動、クラブ活動等、学校行事はもとより日々の学校生活において主体的にリーダーシップを発揮してくれました。

(2) 心豊かな児童の育成

① 広田ベーシック3

- ・本校の学校教育目標「本物の笑顔」の種は、自己実現、他者貢献です。職員は、常に校長の強く確かでしなやかなリーダーシップのもと、共通理解、共通実践を図り、やさしく、かしこく、たくましい子どもの育成に努めています。

本年度は、「児童期は人生の土台（ベーシック）づくり」とあるととらえ、広田ベーシック3（はきものそろえ あいさつ・返事 黙想）を意識させ、指導してきました。個々に以下のような成果が挙げられました。

はきものそろえ

- ・自分のはきものについては、1年を通してよき習慣として定着してきました。課題は、トイレのスリッパです。定着には今一步ですが「次に使うお友達へのおもいやり」の心が見られる児童も増えてきています。



へんじをしっかりとする あいさつをしっかりとする

- ・校内においては、元気で気持ちのよいあいさつが交わっています。課題は地域でのあいさつです。礼節を身につけることは、コミュニケーションの基礎です。発達段階に応じて、今後も指導を継続していきます。

チャイムの前に着席し 目を閉じて開始を待つ

- ・授業開始前に黙想し、心を整え、学びに向かう姿勢を高める習慣が定着しています。今では、児童が主体的に声を掛け合い、着座して黙想を始めることもできています。学習を支えるための心と体の構えがしっかりと育ち、落ち着いた雰囲気学習に向かうことができています。



② 児童会で募った広田小のシンボルとなる「のぼり」の作成と掲揚

・全校から「こんな学校にしたい」という思いや言葉を募り、児童会が主体となって作り上げたのぼりを校門から校舎を包む一帯に掲げています。その言葉は、「あたたかい 笑顔あふれる おもいやり」です。そののぼりを児童は日々目にし、心に刻みながら充実した学校生活を送っています。



(3) 地域人材を生かした、体験活動の充実

① 広田小学校には、児童の登下校を見守る地域の見守り隊の方々が、15名おられます。その方々のおかげで、900名に近い児童の誰一人登下校での事故、大きなけが、またトラブルもなく、児童は安全に登下校できています。加えて、各地区子供会の方々の協力も得ながら、毎朝児童にあたたかい言葉かけ、声掛けを行ってもらい、児童は、地域への愛着をもって安心して過ごすことができています。

② 今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、予防対策を講じながら、地域における様々な分野でのスペシャリストを招聘し、児童は、豊かな体験とともに、情操を高める充実した心の教育を実践することができました。



(福祉体験:3年生)



(花植え活動:4年生)



(芋の栽培活動:5年生)



(生け花教室:6年生)

(4) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践

- ① 4月の全国学力、県、市学力の調査日に合わせ、今年度も2・3年算数の学力調査（東京書籍）を実施しました。併せて、学力と「心の状況調査」との相関を図り、児童理解を深め、個に応じた指導や授業改善の手立てを探り学力向上を図りました。
- ② 2月には、4～6年生が4月に実施した学力調査に再度取り組み、基礎学力を確かなものとすると同時に、3年生が4月の市の学力調査に備え、学力調査を実施しました。
- ③ 国語・算数等の個の能力に応じた補助教材の整備を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、校内研修テーマ「根拠を明確にして伝え合う」力を確かなものとししました。

(5) 特別支援教育の充実を図る環境整備

今年度も、小学校校舎と中学校校舎の特別支援学級（知的・情緒・病弱）の児童と中学校の特別支援学級（知的・情緒）の生徒が合同で、中学生が育てた芋の芋ほり体験を行いました。お互いに助け合って芋ほりをしたり、掘り出した芋を見ながら喜んだりするなど、協力することの大切さや収穫の喜びを味わうことができました。また、後日、リモートで芋の収穫個数の予想を伝える場を設定し、体験を通して数の学習もできました。

